

フレーベルの日に

——フレーベル巡禮の思ひ出を辿りて——

倉 橋 惣 三

（四月二十一日のフレーベル誕生の日に、私共幼稚園職員室の者や、今度新しく入學した二十五人の保育實習科の人達が一室に集つて、さゝやかな會をし、又願へれば、倉橋先生に何かお話をして頂き度いと思つて、御願申上げましたところ、先生は、御多忙の中を、むしろ勵ます様に御聞き入れ下さいました。

二時半過ぎに先生は、はち切れそうに一杯はいつてゐる黒カバンを持つて御出で下さいました。先年親しくフレーベルの跡を、お訪ねになつた時求めて御出でになつた繪葉書や、御本の

数々が、このカバンの中にしまつてあるのでございまして。新らしいフレーベルの額の下に圓く集つて、それ等のものを一ツ一ツ順々に拜見させて頂きながら、先生のお話を伺ひました。伺つて居る中に、俄かに皆様にもこのお話を、お分ち申したい氣持になり、大急ぎでペンと紙切とを取り出して、所々書き記したのが次の筆記となつたのでございます。

無論文責は凡て私にあるのでございますが、先生の感慨深いお話は、屢々私共の心を奪ひ、殊に筆記者の筆を奪ひました。この意味で、文責

は又先生にも幾分か在ると、云ひ得るかも知れません。

お話が濟んで茶菓をいたゞきながら、英國でも米國でも獨逸でも佛蘭西でも、今日この集ひをして居るであらうといふ先生のお言葉が、私共の心を遠い想像へ運びました。吾が國でも、諸地方の幼稚園の方々が、今頃この集ひをして居られるかも、れない等とお噂もいたしました。それから話は幼稚園令の事に及びました。今日公布される筈だといふ先生のお話は、どの位私達の胸を踊らせたでせう。

果せるかな、翌二十二日の官報の最先きに、幼稚園令公布の記事がのつて居りました。そして公布の日は實に二十一日でございませう。偶然とは言へ、あまりの意義多い偶然に、またしても、胸のおどるのを抑へることが出来ませんでした。ふじの記

今日はフレーベルの誕生日に當つて居ります。フレーベルといふよりもむしろ先生と云つて、親しく呼びかけたい様な氣がしますが、先生は幼稚園といふ名を始めた方で、言はゞ幼稚園の先祖です。

今日の新しい幼稚園は、方法に於て必ずしもフレーベルに結びついて居ない所から、此の頃の幼稚園関係者には、ともするとフレーベルを研究しない人が多い様ですが、併し幼児教育の根本精神に於ては、フレーベルに、永久不滅の偉い所があると思ひます。今日の學問からも、フレーベルを理解し、研究し、味はつて見る價值は充分にあると思ひます。

私の實感をもとゝして少しくフレーベルの生涯を憶つて見ませう。

フレーベルの生れたところは、チューリンゲンの森のオーベルワイズバッツといふ小村です。私

は馬車を雇つて行つたのですが、丁度木曾の舊街道を通つてゐる様な氣のする處でした。その村の廣場に、フレーベルの生れた家があります。現に牧師さんが住んでゐます。フレーベルのお父さんも牧師でした。

幼年時代のフレーベルを憶つて見ると、内氣な陰氣なむつゝりとした性質の子供の様でした。極く幼少の時にお母さんに別れましたが、この事がフレーベルの性質をかくあらしめた一ツの主なる原因でもあると思ひます。後年の自叙傳に「お母さん(繼母)が、あなたと呼びかける程に丁寧にして呉れたのが、大變氣苦しかつた」といふ様な事が書いてありますが、こゝうゆう事の氣になる性質の子供だつたのです。兄弟は大勢ありますが、お父さんは外出勝ちでしたので、家庭的な楽しみは殆んど得られませんでした。よく垣根の様などこゝろで遊んで居た様ですが、こゝうして居る中に二ツ

のものがフレーベルの中に生長しました。一つは人間を離れた自然の面白味——枝がさし、葉が芽ぐみ蓄がほころびるといふ様なことのこゝろを味ひました。このごろの子供の様に自然美といふのではなく、又直観といつた風の理科的のものでなく、自然界に行はれてゐる神秘といふ様なもの——之がフレーベルの全生涯を貫いてゐる——の感じを得たのであります。他の一ツは、冥想的な性質です。家庭が明るければどうしても陽氣になります。家庭が今言つた様に淋しかつたので冥想的になつたのでせう。後年になつてのフレーベルも何となしに深い深い冥想に耽ると云ふ方の人でした。

青年時代までは、精神的方面にはあまり關係の無い園藝とか農業とか土木林業等云つた方面の教育をうけ、その方面の職業にも就きました。すなはち教育者にならう等とは、てんで考へて居りませ

んでした。それが或る機會によつて、實に思ひがけず教育に興味を持つて來たのです。そこで、當時教育界の尊崇を一身に集めて居たペスタロツチの下に行き教を乞ひました。それからは専心教育者として種々の境遇を経ましたが、教育者としてのフレーベルの最も落ちついたところはカイルハウでありました。カイルハウは、後にフレーベルが初めて幼稚園を設立したブランケンブルヒから山一ツ越えた山中の小村で、こゝへ學校を建て、ペスタロツチ流の教育事業を施したのであります。今でも尙この學校が残つてゐて、この建物の外は少しの農家があるだけの土地です。此處で教育者としてのフレーベルが内的にも外的にも成熟をしました。即ちこゝで色々の思索を経た後、フレーベルの胸には、フレーベル独自の教育といふものが浮んで來たのです。ペスタロツチからは出て居ますが、フレーベル一流の教育説と云ふもの

が生れて來たのです。と同時に、フレーベルに共鳴して事を共にする數人の同志がこゝに居ました。私はカイルハウのこの學校を訪ねた時、實に感慨無量でした。小さな學校ですが、割に廣い食堂は此の同志の人々の幾組もの結婚式を擧げたところであり、又各自一家を擧げて始終集つたところなのです。又その窓から見える山あひの共同墓地には現に、それ等のフレーベル同志の人々が靜かに眠つてゐるのです。私は宵月の光を辿つて其の墓に詣りました。

此處でフレーベルは、あの有名な「人の教育」を出版しました。冥想から生れて來る人生及自然に對しての神秘的な見方や、發達に關する觀念が、従となり横となつてこの本が生れたのです。これは幼稚園の本ではなく、一般に教育の原理を書いた本であります。幼稚園の基本思想がこの本にあるのは言ふまでもありません。

私は此處でフレール自身が出版した此の本の初版の一部を探し求めて來ました。よく見て下さい。私にとつては大切な寶なのです。

後次第にフレールは幼兒教育のことを直接に思ふ様になつて來ました。そして遂に、カイルハウから山を越えた、里近いブランケンブルヒに幼稚園を設立したのです。此處は今日光と空氣とを豊かに惠まれた高原療養地であります。昔は單純な村であつたと思ひます。今でもこゝに幼稚園の建物がそのまま残つてゐますが、今は小學校になつてゐます。

こゝで施された幼兒教育の原理原則は別のお話として、此處でフレールは二ツのものを残しました。一つは恩物です。も一ツは、遊戯集童謡集の編纂です。吾國では「母と子の遊戯」と譯して居る、あの本です。「人の教育」もフレール獨得の味の出てゐる本ですが、この「母と子の遊戯」はより

多く獨創味の溢れてゐる本で、以前は幼稚園關係者は必ず深く研究すべきものとされて居たものです。私はこゝで二冊きりない此の本の初版の中の一冊を、辛うじて譲つて貰つて來ました。之れもよく見て下さい。私の寶なのです。話が逆になりますが、私がブランケンブルヒに着いたのは、もう町に燈りのついてゐる頃でした。その停車場からホテルへゆく暗い途中で、昔だつたらフレールが出迎へて呉れて、遙に東洋から慕ひ訪ねたこの珍客に、固い握手をして呉れたかも知れない。いや、氏自身は來られなくとも、幼稚園の若い保姆さん方をして提灯をもつて出迎へさせて呉れたかも知れないなど、他愛もない空想を描いて見たりした事でした。

それから、お話がずつと飛んで晩年に、フレールはリーベンスタインの方に移つりました。

此處は温泉場で、夏は貴族的な客の集るところです。こゝの賑かな部分から一寸離れたところの森の中に、晩年氏の全精神を打ち込んだ幼稚園及保母養成所があります。ほんとにいゝところでした。

フレーベルの跡を訪ねることは、どこも皆興味深い處ばかりでしたが、その中でも私にとつて、最も興味のあるのはこゝでした。この家からつま先上りに森の中を小高い高原に出ました。こゝがあの晩年の老先生か、子供と共に歌ひおどつて遊んだ所なのです。その老先生の面影が、子供と共にとんではねてる老先生の様子が、私の胸の中に躍動して來ました。私は恩物の形につくられて居る記念塔の前に立つて、暫くは果てしない追憶に耽りました。當時この温泉場附近の人々はフレーベルをばかおやちと綽名してゐたといふ事ですが、フレーベルのフレーベルたる偉大さは、實に――

その教育思想よりも――子供の前にばかおやちとならずには居られなかつた、その尊い眞純なところにあつたのです。今此のお話をしてゐても、あの時の私の感慨が、もう一度胸に起つて來ます。併し、それを語つてゐると長くなりますから、最後にフレーベルの墓に詣でた時のことをお話しませう。墓は、リーベンスタインに近いシユワйнаといふ處にあります。私を案内して呉れた馬車屋さんは十歳位の自分の娘と一緒に馬車にのせて行き、墓地の中はその娘に案内させました。落葉を踏んで詣でたのですが、あの時の有様がいまでも尙ほ目に浮んで來ます。私はその女の子に、フレーベルつてどういふ人なのときいて見たのです。すると、その娘は言下に「子供のお友達」と答へて呉れました。私は何といふ嬉しい答だらうと思ひました。大教育者だ、大先生だとよく言つて呉れなかつたのです。私は今も其の可愛い、女の子

の顔を覚えてゐます。

これで、私の思出話しはやめにしますが、後世色々の學問が進んで見ればフレーベルの考の中に誤りのある事も見出されて來ます。従つて今日の幼稚園は決して氏の方法の傳統そのまゝを傳へるものではありません。私はどちらかと云へば、吾國に於てフレーベルを最も批判した一人でせう。私の眞の考へは、フレーベルを攻撃したのではなく、フレーベルを無批判に受け入れてゐる人の考を批判攻撃した積りなのです。がそれはやがて氏を批判した事にもなるのでせう。吾々はあくまで氏の方法上の弟子とはなれないのです。併し子供といふものに觸れてゆくその偉い天分(教育論でもない、児童心理でもない無論方法論でもない)に對しては、心の底から、永久にフレーベルを尊敬し尊崇するものです。今日、私が、ブランケンブルヒから求めて來た此のフレーベルの肖像畫を、長く此

の室に飾り度いと思つたのも、其の心からです。今日といふ日を忘れないで、皆さんといつしよにフレーベルを偲ぶのも其の心からです。私はフレーベルの前で言つて來ました。私は随分先生の論を批判しました。しかし、私が、どの位先生の幼稚園精神の尊崇者であるかは分つて居て下さいませうと。地下の老先生も定めし微笑して居られたでせう。

幼稚園令發布に際して、大分、兵庫の保育協會その

他より祝電を寄せられました。御同慶の至りに堪え

まひん。